

グループホーム清久 事業報告

令和2年度事業計画に基づいて以下の事業を行いました。

1 実施事業

(1) 定員と利用率

令和2年3月31日現在

事業名	定員	利用率
共同生活援助	定員44名	93.2%
短期入所	定員1名	49.5%

(2) 入居者の状況

ア 定員内訳

()カッコは短期入所の人数

	清久	ハイツ	上清久	こがらい	おぎそね	こすもす	しらはた	うちや	こぎそね	合計
定員	7名	3名	4名	7名	7名	4名	7名	4名 (1名)	1名	44名 (1名)
現員	4名	3名	4名	7名	6名	4名	6名	4名 (1名)	1名	39名 (1名)

イ 男女比・年齢構成

	19歳～29歳	30歳～39歳	40歳～49歳	50歳～59歳	60歳～69歳	70歳～80歳	80歳以上	合計
男性	2	7	3	8	2	3	1	26
女性	0	0	1	4	4	4	4	13

ウ 平均年齢

	平均年齢(男女別)	平均年齢(全体)
男性	50歳	54.2歳
女性	63歳	

エ 障害支援区分

	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6	計
男性	0	6	3	11	4	2	26
女性	0	0	4	5	4	0	13
計	0	5	7	16	8	2	39

オ 療育手帳・身体障害者手帳・精神障害者保健福祉手帳の所持状況

	療育手帳					身体障害者手帳				精神保健手帳		
	㊦	A	B	C	なし	1級	2級	3級	なし	1級	2級	なし
男性	1	7	14	3	1	0	1	1	24	1	2	23
女性	1	8	3	1	0	0	0	1	12	1	1	11
計	2	15	17	4	1	0	1	2	36	2	3	34

カ 日中活動場所

< 一般就労 >

会社名	仕事内容	人数
(株)なとり	食品加工・荷物運び	2人
(株)ウィズウェイストジャパン	リサイクル選別	2人
(株)松勘工業	武道具生産	1人
(福)久喜けいわ	洗濯・清掃・入浴補助	1人
(株)流通サービス	物流・箱出し	2人
(株)吉野家ホールディングス	食肉加工	1人
(株)アイワイフーズ	食品製造	1人

< 福祉事業所 >

事業所名	サービス内容	人数
久喜けいわ	生活介護	4人
久喜けいわ	就労継続B型	14人
コムラード	就労継続B型	3人
久喜市 あゆみの郷	生活介護	3人
久喜市 あゆみの郷	就労継続B型	1人
久喜市 いちょうの木	生活介護	1人
宮代町 ひまわりの家	生活介護	1人
白岡市 めぐみの里	就労継続B型	1人
宮代町 アバンティ	就労移行	1人
久喜市 偕楽荘	高齢者ディサービス	1人(久喜市あゆみの郷と併用利用)
久喜市 鶴寿荘	高齢者ディサービス	2人(久喜けいわと併用利用)

(3) 職員体制

職 種	配置人数	備 考
所長	1	サービス管理責任者兼務
生活支援員	9	サービス管理責任者兼務(1名) 計画相談兼務(1名) 久喜けいわ生活支援員兼務(1名) (常勤6名、非常勤3名)
世話人	28	久喜けいわ生活支援員兼務(2名) 久喜けいわ事務員兼務(1名) 夜勤勤務のみ(8名) (常勤3名、非常勤25名)
計	38	

2 重点実施事項

(1) 高齢化の支援・環境整備

障害福祉サービスだけでなく、高齢者によりよい支援が提供できるよう介護保険サービスを併用し、手厚い支援を行うことができました。

また、高齢者施設の職員やケアマネージャーからアドバイスをもらい、手すりの場所を検討したり補助用具を設置したりと、日常生活が過ごしやすくなる環境を

作りしました。

(2) 権利擁護、虐待防止の意識向上

虐待防止チェックリストを活用し、日々の支援を振り返りました。チェックシートを活用することで、権利擁護や虐待防止に関する意識が向上しました。

(3) 緊急時の対応

勤務職員や世話人に対して、夜間や利用者の急変、災害等の緊急時にも慌てぬよう連絡体制を明確化し、緊急時にも迅速に対応できるよう整備しました。

(4) 新たな賃貸グループホーム「しらはた」(定員7名)の開設準備

老朽化が激しかった「仁丁町」を2月末で閉鎖し、3月より7人ホーム「しらはた」を開設しました。しらはたの開設により定員を3名増やし、41名から44名の定員となりました。

3 事業報告

(1) 利用者支援

ア 地域生活者としての自立支援

(ア) 個々の利用者のニーズに応えられるよう、意見や要望を聞き取る工夫を行い、日々のコミュニケーションを大切に支援しました。普段なかなか自分の気持ちを伝えられない人も時間をかけることにより、徐々に心を開いてくれるようになり、笑顔で話をしてくれるようになりました。

(イ) 金銭を自己管理できる人に対しては、一ヶ月の収入に対して使える金額を明確にし、計画的にお金を使うことを学びました。一ヶ月のお金を使いすぎ困ってしまった人に対しては、どうしてお金が足りなくなってしまったのか原因を一緒に考え、次に困らないよう話をしました。

(ウ) 単身生活を目指し、サテライト型住居で練習している人に対して、毎週アパートを訪問し、困ったことやどうすれば生活しやすくなるか一緒に考えました。また支援センターの協力も得ながら、本人を含めた話し合いを行うことにより、課題に対しても迅速に対応することで、本人の安心にも繋がりました。実際サテライト型住居で生活してみると、ホームでは起こらなかった個人と地域住民との課題が発見でき、職員も地域移行の難しさを学ぶことができました。

(エ) 家族と離れ、自分の収入だけでは生活が難しい人に対して行政と相談し、法的な支援を受け、生活がしやすくなる方策を考えました。切り詰めた生活の中でも、生活の中での喜びや生きがいを模索し、一緒に今後について話し合いました。

イ 健康管理

(ア) 12月にホームの利用者2名が新型コロナウイルスに感染してしまいました。日中通所している事業所で新型コロナウイルス感染者の濃厚接触者が通所していたとの情報を受け、発熱等の症状はありませんでしたがPCR検査を受けたところ陽性の結果が出ました。幸い2名以外の感染拡大は抑えられましたが、感染力の強さを思い知らされました。

(イ) 今年度は感染症対策とも相まって、マスクの着用・手指消毒・デブールの飛沫拡散防止フィルムの設置など、感染リスクを下げる環境を整えました。

また1日2回の検温やホーム入室時の手指消毒など、今まで以上に気を使いながら行いました。

- (ウ)入居している利用者全員が健康診断を受けました。有所見者に対しては嘱託医に相談し、必要に応じて病院に受診しました。傾向として、中高年の中性脂肪やコレステロールなど、肥満気味の人に対しての指摘事項が目立ちました。
- (エ)食事面に関しては、必要に応じて看護師や管理栄養士に食事のアドバイスをもらい、栄養バランスの良い食事提供に努めました。
- (オ)生活習慣病を予防できるように、公園に出かけウォーキングをする等適度な運動ができるように努めました。

ウ 余暇活動の充実

- (ア)今年度は新型コロナウイルス流行に伴い、外出やボランティアの協力、また少人数の旅行は自粛したため、取り組むことはできませんでした。利用者や家族にも地域の感染状況を説明し、不要不急の外出等は避けるよう理解を求めました。
- (イ)密を避けるため、ホーム間での集まりも制限せざるを得ない状況が続きました。今までには体験したことがない経験により、戸惑いを見せる利用者もいましたが、個々の楽しみを見つけることにより、新しい生活様式に馴染んでいくことができました。

エ 高齢化対策

- (ア)男性1名、女性2名が高齢者のデイサービスを利用し、レクリエーションや機能訓練など行いました。また入浴のサービスもあり、利用者からも「広いお風呂で、みんなでわいわい楽しい。」と喜びの声が聞かれました。年齢も70歳を過ぎ、作業や仕事以外でのふれあいの場ができたことにより、新しい生きがいを見つけることができました。
- (イ)通院が難しい人には、訪問介護を週2回利用し、健康管理に努めました。看護師による定期的な訪問により、専門家からのアドバイスをもらいながら日常の支援に活かし、健康を保つことができました。

オ 虐待防止対策

- (ア)会議や日常の支援の中で、利用者の障害特性について学ぶ機会を設けました。なぜこのような行動や発言をするのか、またその対応方法を話し合うことにより、その人を理解することができました。
- (イ)職員が日々の支援の中で悩みを抱え込まないように、必要に応じて職員間で相談する機会を設けました。また業務上でのストレスを溜め込まないように、相談できる環境作りに努めました。

カ 関係機関との連携

- (ア)定期的に支援センターとの会議を行い、情報の共有化を図りました。ホームだけでは解決できない課題を支援センターに協力を仰ぐことにより、多方面からの支援を行うことができました。特に会社関係に関しては専門のスタッフから情報を聞くことにより、ホームでは知りえなかったことも知ることができ、支援の幅が広がりました。
- (イ)今年度は新型コロナウイルス流行のため、利用者の職場等に立ち入ることが

難しく、巡回等を行うことができませんでした。

(2) 働きやすい職場づくり

ア 業務の整理

- (ア)業務日誌ソフトを導入したことにより、記録の整理が簡略化され、大幅な労務時間の短縮につながりました。
- (イ)生活支援員と世話人の業務を明確化することにより、仕事の偏りが減り、円滑に業務が行えるようになりました。

イ ストレスの軽減

ひとりで仕事を抱えこまないよう、面談を上司や同僚との意見交換を行い、課題の解決や業務の改善を行いました。

ウ 年次有給休暇の取得促進

年間で計画的に年次有給休暇を組み込むことにより、生活支援員全員が5日の年次有給休暇を取得することができました。

(3) 人材育成

ア 今年度は新型コロナウイルス流行により、外部研修の中止が相次ぎました。また各ホームでの会議も密を避けるため行わず、個々での相談や説明に留まってしまいました。そのため紙面を配布し、権利擁護や感染予防対策などの勉強を行いました。

イ 研修実績

<法人内部研修>

研修名	内容	日時	場所	参加者
JOC防災研修	災害時の被害等への危機管理	11/6	リモート	大森
決定支援	意思決定について	11/25	機能訓練棟	大森 相馬 寒河江 齋藤弘 小山 齋藤由 平良
主任主査研修		12/4	リモート	相馬

(4) リスク管理

ア 危機管理の徹底

- (ア)公共機関を利用し通勤等をしている人に対しては、地域の新型コロナウイルス感染状況を確認しながら、密な通勤ルートや通勤方法を避ける方法を検討し、感染防止に努めました。
- (イ)今年度は新型コロナウイルス感染防止の観点から、久喜市の防災訓練も中止になり、地域の訓練に参加することはできませんでした。
- (ウ)久喜消防署立会いの下、ホームでの総合避難訓練を行いました。通報から避難、水消火器での消火訓練を行い、利用者・職員ともに防災に対する意識を高めました。
- (エ)久喜市の防災マニュアルに基づき、地震・風水害の災害マニュアルを作成しました。緊急時にも慌てず利用者自身が身を守れるよう、定期的な訓練を行い、備えたいと思います。

(ウ)台風や地震による停電に備え、各ホームにランタンを準備しました。特に夜勤者のいないホームには、利用者自身が身を守れるよう、職員と一緒にどのように行動すればよいか学ぶ機会を作りました。

(エ)職員が毎日各ホームを巡回し、火の始末の確認を行い、火災の予防に努めました。

(オ)自転車に乗っている人に対しては、自転車保険の加入やヘルメットの装着を推奨し、万が一に備えました。

イ 守秘義務と個人情報保護

利用者の個人情報が取扱いに十分注意をし、記録等は鍵のかかるロッカーに保管し、パソコンや携帯電話はセキュリティをかけ漏洩防止に努めました。

(5) 地域交流

今年度は新型コロナウイルス感染防止の観点から、地域行事は中止が目立ち、参加の自粛をせざる負えない状況でした。そのかわり普段から道での挨拶などを積極的に行い、接点を持つよう心掛けました。

(6) 事業運営

ア 利用率の向上

新型コロナウイルス感染防止対策として、短期入所及び体験利用を制限したため、利用率は伸びませんでした。

イ サテライト型住居の設置

4月より、単身生活の希望者1名に対してアパートの一部をサテライト型住居とし、単身生活に向け生活をスタートしました。